

大学教育学会 課題研究活動報告書 (2020 年度)

提出日 2021 年 3 月 12 日

報告者 井下 千以子

課題研究テーマ	学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望
代表者 (所属)	井下千以子 (桜美林大学)
メンバー (所属)	井下千以子 (桜美林大学)、大島弥生 (東京海洋大学)、成瀬尚志 (大阪成蹊大学)、小山治 (京都産業大学)、小笠原正明 (北海道大学)、杉谷祐美子 (青山学院大学)、関田一彦 (創価大学)、柴原宜幸 (開智国際大学)
担当理事 (顧問)	小笠原正明 (北海道大学)
コメンテーター (所属)	山地弘起(大学入試センター)
実施した活動	<p>2020 年度課題研究シンポジウム I (早稲田大学、オンライン集会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 趣旨説明 : 大学のライティング教育研究の歩みと課題ー大学教育学会誌 40 周年の動向からー : 井下千以子 1. 論述課題と指導内容に関する高大接続の観点からの検討ー中高一貫校の事例をもとにー : 井下千以子、柴原宜幸 2. 探究学習を企図した専門科目でのレポート指導が批判的思考力・論理的表現力の育成に及ぼす効果(1) : 井下千以子、柴原宜幸、小山 治 3. ライティング教育にいかに関読学習を組み込むかー初年次教育科目においてー : 杉谷祐美子 4. 大学時代のレポートライティング経験は仕事においてどの程度役立つかー 社会科学分野と工学分野の比較 : 小山 治 <ul style="list-style-type: none"> ■ 指定討論 : 山地弘起 (大学入試センター) ■ 総括 : 小笠原正明 ■ 司会 : 成瀬尚志、関田一彦
成果	<p>3 年間の本研究の成果は、高大接続から初年次教育、専門教育、大社接続までを射程に入れ、スキル学習に留まらない、人間形成も踏まえた「思考の鍛錬」としてのライティング教育について検討してきたことにある。</p> <p>とりわけ、本学会の成り立ちを継承する教養教育の一環として位置づけたこと、カリキュラムに体系づけた多様な実践報告を取りあげたこと、正課外教育としてのライティングセンターの可能性を示したこと、ライティング力の充実に必須の論題のあり方やリーディング教育の重要性を指摘したこと、理論に基づき開発した教材や教授法と、思考力・表現力の関係性を検証しようとしたことがあげられる。</p>
残された課題	<p>検証した結果は 6 月の大会で発表する予定である。さらに、これまでの成果を編成し、書籍として出版することを計画している。今後は、本テーマの裾野をさらに広げ、実践と研究を発展させていきたい。</p>